



藤倉 泰治
(日本共産党)

本市の財政状況はどうか

実質収支が黒字でおおむね健全

質問 令和元年度決算からみた本市財政状況はどうか。

答弁 一般会計で実質収支が約18億円の黒字となり、おおむね健全な財政運営が継続できている。

質問 「地域交付金事業」の実績はどうか。

答弁 各地区で78事業、約5100万円の実績となり、幅広く活用され、地域課題の解決や地域の活性化に役立つ

ていると認識している。

コロナ危機乗り越えて

質問 新型コロナウイルス感染症の急速な再拡大の影響で7月に県内で初めて感染者が確認された。本市の今後の在り方は。

答弁 さまざまな感染対策や市独自の経済支援策を適切に実施し、「ノーマライゼーション」という言葉のいら

ないまちづくり」やSDGsの理念のもと、安全・安心で持続可能なまちづくりに取り組む。

洪水対策と避難所整備を

質問 このほど、「千年に一回の大雨、2日間雨量589ミ」 という矢作川洪水浸水想定図が県から公表された。その特徴と対策はどうか。

答弁 浸水する恐れのある

区域と浸水する深さ、家屋倒壊危険ゾーンなどが示された。今後はハザードマップを作成し、矢作川全世帯に配布後、ワークショップで世帯ごとの避難場所を検討する。

質問 地域防災計画では洪水・土砂災害時の指定緊急避難場所が少ないが、もっと整備すべきではないか。

答弁 洪水、土砂災害の指定緊急避難場所は増やす必要があるが、市内内陸地域では危険性の高い場所が多く、追加が難しい。避難場所を検討する自主防災組織の活動を積極的に支援していく。

質問 避難所の新型コロナウイルス



地域交付金で購入の祭太鼓

対策はどうか。

答弁 感染を警戒して避難をためらうことがあってはならない。避難者の体温確認のための非接触型体温計やサーモグラフィ、段ボール製パーテーション等を準備する。ソーシャルデスタンスや咳エチケット等の徹底を図る。



島山恵美子
(とうほく未来創生)

オンライン授業の実現は

早期の端末使用を検討する

質問 タブレット端末での授業が可能になる時期と、実現に向けたスキームは。

は、少し時間がかかるものと考えている。来年度以降も、教員がタブレットを活用した効果的授業ができる

るが、新型コロナウイルス感染症の影響で整備期間が前倒しされた。児童生徒が学習における疑問点等をタブレット

多様な避難の周知は

質問 多様な避難の在り方

新型コロナウイルス禍における避難について

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害が発生しそうなときに危険な場所にいる人は、速く避難することが大切。市では、避難所において、十分な換気の実施や、スペースの確保を行うこととしています。感染症の防止には、避難者全員の協力が不可欠です。感染症拡大を防ぐため、以下の項目について確認や事前の準備を行い、災害に備えるようお願いします。

〈密閉、密集、密接の3密を避ける（分散避難）〉

- まずは、自宅の周りにどのような危険があるかハザードマップを確認し、自宅で安全が確保できる場合は、在宅避難を基本として避難行動をお願いします。
- 自宅の外に避難が必要な方は、親戚や友人の家等への避難も検討をお願いします。
- 避難所に避難する場合は、他の避難者との距離を十分に取るようお願いします。

コロナ禍における避難について (市HPより)

答弁 ネットワーク環境整備は、9月末の完了見込み。タブレット納入は12月末までの見込み。冬季休業中に教員への基本的操作や効果的使用方法等の研修を実施し、早期に授業使用が可能となるよう進める。授業での効果的使用までに

ようサポートしていく。

質問 GIGAスクール構想の前倒しによる教育現場の課題とその克服は。

答弁 GIGAスクール構想は令和2年度から令和5年度までに全ての小中学校の児童生徒に対し、1人1台タブレット整備を進めるものであ

で調べ、それを基に考えを发表し合うなど、授業改善ポイントの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて大きく踏み出すことを期待。課題は、多くの教員がタブレット活用授業の経験が少なく、授業のどの場面で、どのように活用すると効果が大きいのか

について、市民への周知策は。

答弁 新型コロナウイルス感染症拡大が続く現状では、避難場所の3密回避のため「分散避難」をお願いしている。その方法は、自宅が土砂災害や洪水が発生する可能性が高い危険な場所かどうか、ハザードマップなどで確認し、

可能性が低い場合には、自宅にとどまり、避難の場合には、指定避難所等への避難ではなく、親類や知人の家など多様な場所への避難とする。周知は、広報、市のホームページなどを利用。自主防災組織には文書送付。ためらいなく避難する重要性を周知徹底する。

復興対策特別委員会

復興対策特別委員会（大坂俊委員長、委員17人）は9月23日、今春完成の気仙町の今泉地区コミュニティセンターと高田町の陸前高田市民文化会館「奇跡の一本松ホール」を現地視察し、施設の復旧状況を確認するとともに利活用の在り方を探りました。

今泉地区コミュニティセンターでは、佐藤由也市民協働部長の説明の後、菊池満夫館長の案内で施設内を見学しました。

建物は木造平屋建て、延べ床面積454平方メートルで、大広間や会議室などの作りに地元との協議を反映させたとのことでした。市の指定避難所として防災備蓄倉庫も整備されており、今後は地区コミュニティ活動と



今泉コミセン

防災の拠点となる施設として、大きな役割を果たすことが期待されます。

次に市民文化会館に移動し、被災した市民会館と中央公民館の機能を併せ持つ施設を、佐藤伯一館長らの案内で視察しました。

施設は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）および木造3階建て延べ床面積3591平方メートル、ホールの座席数は640席となっており、車椅子スペースとして1階2階の各階に4区画ずつ計8区画が整備され、さらに親子席（キッズルーム）として独立したスペースが設けられています。

ホールは、奥行きのある舞台が整備され、音響効果にも配慮されています。舞台裏には大楽屋、小楽屋2



市民文化会館

複合的相乗効果を生み出すことのできる施設が整備されたことにより、今後は本市の文化活動の拠点となり、新型コロナウイルス感染症が収束した後に館内機能がフル活用されることを期待するところ。です。